

発刊に当たって

平成27年に実施された全国学力・学習状況調査において、我が国の子供たちには、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることに課題が見られました。

また、TIMSS等の国際調査において、日本の生徒は、理科の勉強が「役に立つ」、「楽しい」と回答する割合が国際平均より低く、理科の好きな子どもが少ない状況を改善する必要があるとの指摘がありました。

こうした中、平成28年12月の中教審答申では、観察・実験を中心とした探究の過程を通じて、児童生徒自身が課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験を可能な限り増やし、理科の面白さを感じたり、有用性を認識させたりすることを重要視しております。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、思考力や表現力など育成すべき資質・能力を明確にした探究的な学習プログラムを開発するほか、子供たちの興味・関心を高める観察・実験等を中心とした研修講座やサイエンスカーを活用した移動理科教室を実施しているところです。

本研究紀要は、平成28年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究や教材開発等の成果をまとめたものです。

本研究紀要が、各学校の授業改善を目指した様々な取組に生かされ、本道の理科教育の振興に広く役立てられるよう期待します。

平成29年 3 月

北海道立教育研究所長

秋 山 雅 行

